

28PA-pm444

タバコに関する薬剤師の意識調査 (3)

○田中 三栄子¹, 小本 健博², 設楽 拓也², 小松 健一³, 川嶋 恵子¹ (1北海道科学大,²ココカラファインヘルスケア,³北海道薬大)

【目的】2003年に日本薬剤師会は『禁煙運動宣言』をした。宣言項目の中に「薬剤師の禁煙を徹底します」と「国民の禁煙支援に積極的に取り組みます」とある。そこで、果たして「薬剤師の禁煙は徹底されているのか」についてアンケート調査を行なって検証した。

【方法】調査は、ココカラファインヘルスケア調剤薬局（関東以北）に入社3年以内の薬剤師研修会参加者を対象に、タバコに関するアンケート調査を実施した。調査方法は集合調査法・多項選択法・無記名式、調査期間は2017年6月であった。調査内容は、基本属性（性別、年齢）、喫煙状況、喫煙者への意識、受動喫煙（副流煙・呼出煙）、公共施設の禁煙、受動喫煙と喫煙が影響する疾患の理解度についてである。データ解析は、エスミ Mac 統計解析 V2 を用いて解析を行なった。

【結果】薬剤師94名のうち、記入漏れのある無効回答を除き得られた有効回答数は91名(96.8%)であった。基本属性は、男性29名(31.9%)、女性62名(68.1%)、20代88名(96.7%)、30代3名(3.3%)であった。喫煙状況は喫煙者4名(4.4%)であり、その内の3名に禁煙チャレンジの経験があるが、全員が失敗していた。周囲に喫煙者がいる場合は近づきたくない54名(59.3%)、公共の施設は禁煙にすべき34名(37.4%)であった。受動喫煙の理解度は62.6%であり、タバコが影響する疾患は、CKD、糖尿病、認知症等はいずれも50%以下の理解度であった。

【考察】被験者の全ての店舗は完全禁煙であるが、喫煙薬剤師が少数ながらも存在していた。会社主催の研修会を利用してのアンケート調査は、喫煙薬剤師への大きな禁煙啓発に有効である。『薬剤師の喫煙率ゼロ』を目指して、被験者を広範囲へと拡大して調査を継続していく予定である。